

2011年10月

民俗 — No. 3

けんぱくものしりシート

よしはま

吉浜のスネカ



これは、おそろしい姿をした「スネカ」が家々を回って豊作や豊漁をいのり、なまけ者の子どもをこらしめる行事です。

大船渡市の三陸町吉浜で毎年1月15日の小正月に行われています。

背中に背負った俵の上に、くつが乗っています。これは、スネカがなまけ者の子どもを俵に入れ、さらって帰ってしまうという事をあらわしています。



なまけ者をこらしめるために、角やきば、ぼさぼさの毛が生えたこわい顔をしています。

手に持っているのは、切りばちといって、なまけ者のすねの皮をはぎ取る道具です。

スネカはすねの皮をはぐという意味の「スネカワタクリ」が短くなり、スネカとよばれるようになったといわれています。



すね

こしにアワビの貝がらを下げています。これで音をたて、鼻息をならし、スネカがきたことをその家の人に知らせます。



とある家いえにスネカがやってきたところをのぞいてみましょう。



①

①家いえにスネカが近ちかづいてきました。戸との前まえで鼻息はないきとアワビの貝かいがらをならし、スネカがやってきたことを知らせます。

②家いえの中なかに入り、カバネヤミ（なまけ者もの）の子こどもはいないかおどかし、いい子こにするか聞きいています。



②



③

③家いえの人ひとが「スネカ様さま、家うちにはなまけ者ものはいませんので帰かえって下ください」といい、おもちやお菓子かし、お金かねなどをわたします。スネカはそれを受うけ取り、帰かえっていきます。

スネカは一時いちなくなりかけた行事ぎょうじですが、地元じもとの人ひとたちがいっしょうけんめい残のこそうと努力どりょくし、今いまも続つづけられています。今いまでは小學生しょうがくせいや中學生ちゅうがくせいがスネカとして参加さんかすることもあるそうです。

このような行事ぎょうじは全国各地ぜんこくかくちにみられます。有名ゆうめいな秋田あきたの「ナマハゲ」も同おなじような行事ぎょうじです。

参考さんこうにした本ほん 『三陸町史』三陸町 1968年

来月らいげつ（11月）の
けんぱくものしりシートは
現勢げんせい・生物せいぶつー3だよ！
おたのしみに！



モッチャン



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>